

曹洞俳壇

選・村松五灰子

天上に咲きたる花火ははが摘む

埼玉県 石井 進

評 次々に打ち上げられる美しく大きな花火。天上に居られる方が摘まれるに手ごろな大きさなのだろう。

大花火を「摘む」という綺麗で楽しげで豊かな表現が良い。疵を慕う心は切である。

暑き日を生き疲れたる植木鉢

京都府 村井 澄子

評 連日の猛暑。今日もまた長い一日に萎えに萎えている鉢の植物。必死で今日も生き残っているそれに憐憫の眼差しがある。

◆ふる里の顔となりたる盃蘭盆会

茨城県 鈴木 米征

◆尻太きなすびの牛は母のため

山口県 御江やよひ

◆身纏ひしてより木槿散りにけり

新潟県 星野 三興

◆菊なます女ばかりの宴かな

長崎県 崎田 定雄

◆空蟬や七十回忌の若き伯父

新潟県 高橋 桂子

◆命在る限り父母在り門火焚く

和歌山県 田崎よし子

◆飼主は独居老人はなみ孕猫

福岡県 村山 佳朗

◆かはほりや門灯暗き山の宿

埼玉県 松枝 勝一

◆鯛せや急くこと何もなき暮らし

埼玉県 日尾野安子

◆この町に馴れて姉妹の盆踊

愛知県 伊藤 律子

*選者吟

旅衣とはアノラック芭蕉の忌

五灰子

*作句小見

昭和十二、三年ころに虚子の門下で作る「九羊会」。九名の中に私の師である伊藤柏翠がいました。福井県で没して今年十五回忌。同県の東尋坊に虚子・柏翠・柏翠の思ひ人、愛子の三人の句碑が日本海に向かって建っています。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

田の土にかそかしみゆく水の音年々に聞き
また今年聞く
長野県 毛涯 潤

評 田の上にしみゆく水のかそかな音を聞きながら農耕の暦は繰られてゆくのだろう。穏やかに季節が推移してゆく安堵感がそこはかとなく伝わってくる。先祖代々そうしてきたことをも思わせ一首に奥行を与えている。

蜘蛛の巣を分け入り伸びた草を引く虫の領域
肌で知らさる
山口県 横川美代子

評 蜘蛛の巣の境界を破り虫の領域を侵したために虫から反撃を受けたのだとユーモアをもって詠い収めている。共存することの大切さも暗示しているようだ。

- ◆近頃は会話も無くてと嘆く友その子につこり挨拶くれる
兵庫県 常石 孝子
- ◆汚染なき万葉の旅を想いけり瓦礫に埋もれる真野の蒼原
福島県 大槻 弘

◆里帰り広い和室の長押には祖父母に混じる軍服姿
奈良県 鈴木 重雄

◆唯一度うしろ姿を見せしみの夢のなかなる亡夫にこだわる
兵庫県 前田あつ子

◆戦闘を再開せしというアナの事務的報にガザの児ら思う
宮城県 須藤智恵子

◆本国に校舎建てむと明日帰る留学生に和食もてなす
東京都 野村 信廣

◆はたはたと風うつ身をうつ大黒の幟の中を布施包みゆく
三重県 野呂 と志

◆胡瓜棚害虫駆除の蜘蛛の巣は傷めてならじと潜り抜け出る
愛知県 小久保左門

◆過疎進むさびしき村と思うなよ妻と過ごした想い出の里
鳥取県 峰地 三義

◆草花に散水高くまた遠くホースに生み出す七色の虹
岩手県 関合 新一

*選者詠

二百年の樹齢をほこる杉木立動かざるもの
われは畏敬す
ちづ

*作歌小見

天狗で有名な大雄山最乗寺に行きました。雨上がりで湿気を帯びた樹木は生命力がはちきれんばかりに鬱蒼としていました。歴史の盛衰を見てきた樹々のそこにじつと存在しつづけてきたことの迫力を思わないわけにはゆきませんでした。



大本山永平寺



深秋

永平寺の背にそびえ立つ大仏寺山が鮮やかに色づき、秋の深ま
りを感じさせる季節となりました。

都には紅葉もみじしぬらんおく山は

夕べも今朝もあられ降り

〔傘松道詠〕

この和歌は、寛元元（一二四三）年京都から越前の地に移られ
たばかりの道元禅師が、吉峰寺で冬を過ごされた時に詠まれた歌
と伝わっています。今ごろ京の都では山全体が美しく紅葉してい
るであろう。しかしここはすでに冬となり、夕べも今朝もあられ
が降って寒いことだと詠まれているのです。

年によっては初雪も見られるこの時期、十一月七日より冬制中
が始まります。三カ月間の禁足期間を設け、修行僧は朝な夕な坐
禅・弁道に励みます。法要や作務が多い夏制中に比べ、冬制中は坐
禅に専念できるのです。修行僧にとって雪深いこの越前の地で心
静かに坐るひとときは生涯の財産となります。

下旬になると、建物に雪が降り込まないよう伽藍や廻廊のまわ
りに雪囲いをします。雪がほとんど降らない地域で生活をしてい
た修行僧には初めての経験であり、慣れない作務を通して冬の修
行の厳しさに思いを馳せます。雪囲いができあがると本格的な冬
の到来です。

ご本山だより



大本山總持寺



太祖降誕会

つるみ夢ひろば



「つるみ夢ひろば」と御開山・瑩山禪師の七百五十歳の降誕会

十一月五日は明治四十四（一九二一）年に總持寺が能登から横浜鶴見の地に移転し、遷祖式が盛大に行われた日です。

總持寺ではこれにちなんで毎年十一月一日から五日まで様々な御移転記念行事を行っております。

その内容は、記念法要の他に、檀信徒の集い・修行僧による布教弁論大会・大茶会・華道展・万灯供養・稚児行列・「つるみ夢ひろばイン總持寺」など多岐にわたるものです。

特に三日の「つるみ夢ひろばイン總持寺」は地元の方たちと協力し、境内を開放してのバザール・ステージパフォーマンス・芸術作品展などの催しが繰り広げられ、何万人もの人々が訪れます。まさに文化の日に相応しい行事といえましょう。

また、二十一日は總持寺を開かれた瑩山禪師の降誕会、つまりお誕生日であります。特に今年には七百五十歳の誕生日という記念すべき年でもあり、大祖堂に於いてご誕生をお祝いする法要が厳粛に営まれます。

降誕会が終わるといよいよ臘八接心を迎える時節となり、修行僧の顔つきが一段と引き締まってまいります。

大本山總持寺／045-581-6021